

令和2年度図書館協議会 議事録

日時 : 令和2年11月26日(木) 午後2時～3時半

会場 : 図書館3階セミナールーム

出席者: <委員>

平井 丈夫会長(市ふるさとづくり推進連絡協議会会長、富山市社会教育委員)

中村 哲夫会長代理(元神戸学院大学教授)

赤川 雅和委員(元富山県立図書館長)

大割 範孝委員(北日本新聞社 編集局次長兼文化部長)

岡本 達也委員(市PTA連絡協議会特別委員会 良書をすすめる会 会長)

高野 知代委員(富山市立図書館よみかかせの会 副代表)

土肥 祐子委員(声のライブラリー友の会 会長)

古木 襟子委員(公募)

堀 るみ子委員(市小教研 国語科部長)

山木 恵一委員(大沢野中学校 校長)

渡邊 祥治委員(公募)

事務局: 嘉藤館長、寺島副館長、清川副主幹、山崎副主幹(調査係長)、瀬口副主幹(資料係長)、吉岡読書推進係長、中村管理係長、新保主査司書、瀬戸主任司書

議事録(要約)

< I 決算・予算の状況及び主な事業について >

(委員)

新型コロナウイルスによる休館後、通常の図書の利用状況、貸出数、録音図書の貸出状況について、休館前と同じ水準に戻っているか。

(事務局)

再開直後の利用者数は3倍、貸出冊数は4倍となったが、月平均は、前年度より若干の減となった。

録音図書の郵送サービスは休館中も従来通り行っていた。カセットテープについては毎月の利用者数は減少。デージーは5月、6月は減少し、7月以降は前年通りであった。

(委員)

図書館スタンプラリーについて、孫とともに参加し、孫もたいへん喜んでいて。このスタンプラリーのような行事は、今後も続けるのか。

(事務局)

現在、来年度の行事については検討中である。

(委員)

新型コロナウイルス感染症の影響から、図書館や本の大切さが身に染みたように思う。自粛期間中、「若い人はゲームや電子書籍などいろいろな過ごし方があるが、高齢者は何をすればいいのか分からず精神的につらかった」、「休館になることがわかっていたら、もっと早く本を借りるべきだった」との意見が友人らからみられた。

TAKE OUT BOOKS について、図書館の滞在時間を短くしつつも本の貸出ができる、大変良い企画であると思う。現在、新型コロナウイルス感染症の影響が再度広がっている中で、第二回の企画があるか。こういった企画をまた行い、広く宣伝すれば良いと思う。

(事務局)

TAKE OUT BOOKS については、新型コロナウイルス感染症の影響でゆっくり本を選んでいただくのが難しい中で、少しでも図書を貸出できるように企画したものである。児童だけでなく一般利用者にも大変好評な企画であったため、夏にも再度、開催した。来年度以降の開催も検討したい。

< II 利用者等からのご意見などについて >

(委員)

アンケートの図書館利用の目的の回答について、2 つまで選択可にしたということだが、2 つの回答がどういった組み合わせになっているかということが重要であると思う。データ解析をもっと深く行ってほしい。

(事務局)

ご意見を受け止め、データ解析の精度を上げるよう努めたい。

(委員)

アンケートの図書館利用の目的の回答の「館内で読書するため」や「時間を過ごすため」等のいわゆる時間つぶしは、富山のような住環境の良い県では割合が少ない。本館に来て本を借りるのは、ここにしかない本があるような時のみになるので、イベントで集客し、来館者を増やしている。

富山市の場合、分館・地域館の役割が重要になってくる。市のコンパクトシティ施策では、まちなかに集約し、収益性を高め、その利益を周辺に配分するとされている。配分される地域館、分館が富山市の大きな特色であり、目的志向につながる。

今後、水橋に小中切れ目のない義務教育学校ができ、図書館の対応も水橋はモデルケースとなる。義務教育学校の考え方は地域おこしと深くかかわる部分があり、そういった教育施策とも連携し、地域に知識を提供するような図書館であってほしい。

また、学生の利用に関連して、市教育委員会の管轄である中学教育と、県教育委員会の管轄である高校教育の間でも今後、読書普及に関する連携が必要になってくるだろう。

富山市は市民の情報レベルが高いと思われる。「日本一の富山市をもっと上に」という考え方で

図書館の運営を行ってほしい。

運営にはデータ解析が大切。また、稀なケースに大きなヒントが隠れている可能性があるので、全館のレアな意見が館長の耳に入るようなシステム作りが大切だと思う。

(事務局)

富山市のレベルが高いということを心にとめて、図書館運営を行っていきたいと考える。

<Ⅲ図書館の運営評価について>

(委員)

児童サービスに関連して、新型コロナウイルス感染症の影響で、小学校内での読書への関心が高まっている。緊急事態宣言の解除後、図書館が早期に開館したことに感謝したい。

学校招待については、感染症対策の観点から公共交通機関の利用が制限されるなど、移動手段において難しい部分があった。学校訪問の事業もぜひ充実させてほしい。

また、第四次富山市子ども読書活動推進計画策定に際して、小学2年生後半から3年生にかけて絵本から物語への移行をどう行うかが課題となり、主体的な読みを促すこととなった。学習指導要領も主体的な学びとなっている。強制ではなく、読みたくなる動機づけ、雰囲気作りが大切。図書館司書に高いレファレンスの専門性を発揮してもらい、学校職員や学校司書にご指導いただくことで、学校の子どもの質の高い読書につなげたい。

(事務局)

窓口で学校司書やボランティア会員が訪れた際、力になるよう職員に周知している。今後もご意見をいただき、そのように努めたい。

(委員)

子ども読書を推進するにあたって第四次富山市子ども読書活動推進計画にあるような地域、図書館、学校、家庭のネットワークが大切。その中でも図書館の役割が大きいと感じている。計画の中で図書館司書や学校司書、地域の保育所等のそれぞれの推進計画があるが、トータル的にサポートする体制があるといい。例えば、司書のサポートに限って言えば、鳥取に学校図書館支援センターがある。こういったネットワークをコーディネートすることで、子どもの読書の推進が図られていくのではないかと思う。

また、各地域館でそれぞれどのようなニーズがあるかを把握し、学校や公民館等とも連携しつつ、地域館としての図書館活動を活発にしていってほしいと考える。

(事務局)

婦中図書館では富山西高校の生徒と連携したポップの展示、八尾図書館ほんの森では講演会及びワークショップ「和紙の魅力再発見」、大山図書館ではセミナー「謙信越中襲来」、細入図書館では細入在住の郷土史家による作品展示などを行った。今後も地域連携を進めていきたいと考える。

< V その他（意見交換） >

（委員）

アンケート調査結果について、お褒めの言葉が多く、職員が懸命に努めていると感じられた。ただし、評価について前年を上回らないと A 評価が付かないのは厳しいように思われる。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、多少は評価が下がっても仕方ないとも感じる。今後の評価方法についても検討してほしい。

中核市の図書購入費の比較について、昨年の資料には無かったもので、知れて良かったと思う。中核市の中では施設数が多いと思うが、良い面もあれば、図書館にとって重荷になるような部分もあるのではないかと。学校の再編計画等も出ている中、分館数は多いままでよいのか。また、予算の配分、複本が増えることでの問題など、館が多いことによる課題点もあると思う。

課題を踏まえ、現状のデータ分析を高密度に行い、図書館の方向性を決めておいた方がよいのではないかと。

（事務局）

評価の仕方について、職員として上を目指すひとつの目安になると考えている。

分館については、近くに図書館があることの利点はあると思うが、図書購入費を配分すると 1 館あたりの金額が少ないなど、ご意見をいただいた通りの課題点もあると思う。データ分析を行い、図書館の方向性を決めていきたい。

（委員）

子どもたちのために、学びのための図書館ということを意識した選書を行ってほしい。また、財政的に難しいかもしれないが図書館で学校図書を用意して持っていく等、学校図書館への支援を行ってほしい。

図書館の PR を工夫して行っていることがよくわかったが、図書館司書の専門性を損なわないための研修が必要になってくると思われる。研修に努めるとともに、地域館・分館職員、特に委託職員のレファレンス能力の向上や、本館からの支援が望まれる。

（委員）

分館が近くにあり、予約をしてすぐ取り寄せてもらえるということに非常に利便性を感じている。児童図書フロアの受付に司書がないことがあり、改善を望みたい。

以上